



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月3日

上場会社名 株式会社サンクゼール 上場取引所 東
コード番号 2937 URL <https://www.stcousair.co.jp/company>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）久世 良太
問合せ先責任者 （役職名）コーポレート本部 本部長 （氏名）山岸 泰幸 （TEL） 026-219-3902
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	15,411	5.2	640	4.1	691	3.3	480	58.8
2025年3月期第3四半期	14,648	2.4	614	△43.5	668	△40.9	302	△58.2

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 331百万円（21.0％） 2025年3月期第3四半期 274百万円（△67.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	51.88	51.30
2025年3月期第3四半期	32.80	32.30

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	10,872	4,972	45.7
2025年3月期	9,245	4,961	53.6

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 4,969百万円 2025年3月期 4,957百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期（予想）				35.00	35.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,716	6.4	918	9.9	916	8.4	484	38.3	52.24

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) St. Cousair Korea Co., Ltd.、有限会社長生堂、

除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2026年3月期3Q	9,297,600株	2025年3月期	9,264,200株
2026年3月期3Q	46株	2025年3月期	46株
2026年3月期3Q	9,269,690株	2025年3月期3Q	9,234,597株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(表示方法の変更)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）は、米国による追加関税や主要国間の貿易摩擦を背景に、世界経済の不透明感が続きました。国内では賃上げ動向が進展しつつも、円安や食料品価格の上昇を背景に実質賃金の弱さが続き、日常生活における節約志向は根強く推移しております。

食品製造・食品小売業界におきましても、原材料価格や物流費の高止まりによるコスト上昇が継続し、消費環境の回復にはなお時間を要する状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループは「愛と喜びのある食卓をいつまでも」というコーポレート・スローガンを掲げ、お客さまの食卓に彩りを与え、ご満足いただける商品やサービスの提供に注力しております。今後もお客様の声に真摯に耳を傾け、お客さまニーズを起点とした商品やサービスを提供することで、より多くの皆さまに当社グループのファンになっていただけるように取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間において、B to Cの販売チャネルである店舗（直営・F C）に関しましては、売上高が前年同期比1.8%の減少となりました。これは、食品価格の高騰に伴う購買行動の変化により、既存店（注）のお客さま数の減少が継続したことが要因です。こうした環境下、当社グループはディスプレイ演出や試飲・試食を強化することで、商品の魅力を直感的に伝える売り場改革を進め、来店動機の創出と購買促進に注力しております。またMD戦略として、季節感や新しさを感じさせる商品ラインナップの充実や、回転率を高める売り場設計を推進し、購買動機の創出を図ってまいります。E Cの売上高は、前年同期比5.6%減となりました。現在は、公式サイト内での回遊促進と購買率の向上を目的とした改善のほか、デジタルマーケティングの強化に注力しております。

（注） 当社グループでは、開店後18か月以上経過している店舗を「既存店」として客単価及び客数を集計しております。

B to Bの販売チャネルのうちホールセールに関しましては、既存の主要取引先である大手小売チェーンにおいて、新たなカテゴリー商品の開拓が奏功し、売上高は前年同期比で22.4%増加いたしました。グローバルは、米国・アジアともに堅調で、売上高は前年同期比で39.7%と大幅に増加しております。米国では、ブランド間のクロスセル強化により売上が拡大し、製造工場の稼働効率向上にも寄与して利益貢献につながっております。アジアでは、2025年9月の韓国法人設立により、現地での販売を強化できる体制が整備されました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高が15,411,760千円（前年同期比5.2%増）となりました。営業損益は、売上高の増加により640,059千円（前年同期比4.1%増）の営業利益となりました。経常損益は、為替差益40,439千円等の営業外収益74,404千円を計上した一方で、支払利息14,968千円等の営業外費用23,240千円を計上したことにより、691,223千円（前年同期比3.3%増）の経常利益となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、税金費用206,212千円を計上したことにより、480,886千円（前年同期比58.8%増）の親会社株主に帰属する四半期純利益となりました。

当社グループの出店政策に関しましては、商圈人口、賃貸条件、R O I C等の指標を総合的に勘案し、新規出店を行っております。当第3四半期連結累計期間におきましては、「久世福商店」業態で5店舗、「サンクゼール」業態で1店舗を新規出店した一方、「サンクゼール」業態で3店舗を退店いたしました。また、「サンクゼール」業態の5店舗を「久世福商店」業態へ切り替えを行いました。その結果、当第3四半期連結会計期間末における店舗は直営店54店舗、F C加盟店124店舗、計178店舗となりました。

当第3四半期連結累計期間における業態別の店舗数は以下のとおりです。業態の切り替えを行った店舗については、「サンクゼール」業態の減少と「久世福商店」業態の増加に含めて集計しております。

業態名	区分	前第3四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末	増加	減少	当第3四半期 連結会計期間末
サンクゼール	直営店	10	9	1	6	4
	F C加盟店	2	3	—	2	1
	計	12	12	1	8	5
久世福商店	直営店	42	43	7	—	50
	F C加盟店	121	120	3	—	123
	計	163	163	10	—	173
全業態合計	直営店	52	52	8	6	54
	F C加盟店	123	123	3	2	124
	計	175	175	11	8	178

当社グループは、食品製造販売事業を単一の事業セグメントとしているため、セグメント情報の開示は省略しております。

当第3四半期連結累計期間におけるサービス別の売上高は以下のとおりです。

区分	売上高（千円）	前年同期比増減率
直営	4,635,906	△0.6%
F C	5,516,378	△2.7%
E C	904,639	△5.6%
ホールセール	2,336,123	22.4%
グローバル	2,018,712	39.7%
計	15,411,760	5.2%

① 店舗（直営・F C）

当第3四半期連結累計期間における店舗（直営・F C）の売上高は10,152,285千円となり、前年同期比1.8%減となりました。食品価格の高騰を背景とした購買行動の変化によるお客さま数の減少が主因です。一方で、お客さま単価は高水準を維持しており、購買意欲の高いお客さまからの支持は継続しております。

こうした状況を踏まえ、当社グループでは、これまで強化してきた商品開発力に加え、ディスプレイ演出や試飲・試食による体験価値の向上、また接客力・販売力の強化等を含めた売り場改革を推進しております。あわせて、季節感や新しさを意識した商品ラインナップの充実や、回転率を高める売り場設計等のMD戦略にも着手し、来店動機の創出と購買頻度の向上に取り組んでおります。

新規出店に関しましては、「久世福商店」で5店舗（直営3店舗、F C 2店舗）、「サンクゼール」で1店舗（直営1店舗）を出店した一方、「サンクゼール」で3店舗（直営2店舗、F C 1店舗）を退店し、当第3四半期連結累計期間における店舗は直営店54店舗、F C加盟店124店舗、計178店舗となっております。

② E C

E Cの売上高は904,639千円、前年同期比で5.6%の減少となりました。売上減少の要因は購買率の低下であり、現在は公式サイトにおける回遊促進及び購買率の向上を目的としたサイト改善に取り組んでおります。サイト訪問者に対して、商品の魅力がより伝わるような構成の見直しや、新たなコンテンツの追加等により、価値訴求力を強化してまいります。

また、デジタルマーケティングの強化施策として、お客さま接点の拡大と効率的な送客の実現を進めており、公式サイト流入数の拡大と購買率の向上という両面から対策を講じることで、E C事業の売上回復を目指しております。

③ ホールセール

ホールセールの売上高は2,336,123千円、前年同期比で22.4%の増加と好調に推移しております。主要取引先である大手小売チェーンにおいては、前期の販売低迷から一転し、商品ラインナップの見直しや、お客さまニーズに基づく商品開発を進めたことで、売上基盤が強化されました。また、新たなカテゴリー商品の開拓と提案により販売力が強化されたことも、売上増加に寄与しております。

加えて、取引先ポートフォリオの拡大により、特定取引先への依存度を低減することで、ホールセール事業の安定成長に向けた体制づくりを推進しております。

④ グローバル

グローバルに関しましては、売上高2,018,712千円、前年同期比で39.7%の増加となりました。

米国では、既存ブランドに加えて、2024年10月の Bonnie's Jams、及び2025年4月の KELLY'S JELLY の事業譲受により、ブランド間のクロスセルが効果的に機能したこと、また、新たな小売チェーンでの販売が開始されたことも奏功し、売上高は前年同期比46.9%増の1,368,776千円となりました。さらに、販売量の増加が製造工場の稼働効率向上にも直結しており、利益の押し上げ効果を生んでおります。

台湾では、大手小売チェーン向けの商品開発による取扱品の増加により、売上高は前年同期比36.4%増の581,922千円となりました。その他エリアに含まれる韓国では、2025年9月に現地法人を設立し、現地販促の強化と韓国商材の発掘・発信に向けた事業展開が本格的にスタートしております。この結果、その他地域の売上高は68,013千円となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は10,872,809千円となり、前連結会計年度末に比べ1,627,480千円増加いたしました。これは、売掛金が699,680千円増加したことに加え、のれん等の無形固定資産が267,052千円増加したこと等によるものであります。

負債は5,900,586千円となり、前連結会計年度末に比べ1,616,430千円増加いたしました。これは、買掛金が448,003千円増加したことに加え、短期借入金が410,000千円増加したこと等によるものであります。

純資産の部に関しては、親会社株主に帰属する四半期純利益480,886千円や剰余金の配当324,245千円の計上により、利益剰余金が前連結会計年度末に比べ156,640千円増加いたしました。その結果、株主資本は前連結会計年度末に比べ160,310千円増加し4,818,384千円となり、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ11,049千円増加し4,972,222千円となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は45.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月13日に発表した通期の業績予想から、現時点で変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,936,046	2,229,458
売掛金	1,995,898	2,695,578
商品及び製品	1,579,534	1,774,982
仕掛品	98,315	82,669
原材料及び貯蔵品	330,576	362,417
その他	183,187	108,850
貸倒引当金	△484	△690
流動資産合計	6,123,073	7,253,267
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,330,778	2,445,164
減価償却累計額	△1,567,770	△1,617,889
建物及び構築物（純額）	763,008	827,274
その他	1,858,890	2,023,354
減価償却累計額	△870,525	△905,567
その他（純額）	988,364	1,117,786
有形固定資産合計	1,751,372	1,945,061
無形固定資産		
商標権	655,791	565,748
のれん	167,996	529,367
その他	27,406	23,130
無形固定資産合計	851,194	1,118,246
投資その他の資産		
その他	519,695	556,240
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	519,688	556,233
固定資産合計	3,122,255	3,619,542
資産合計	9,245,329	10,872,809

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,098,952	1,546,956
電子記録債務	181,335	205,770
短期借入金	400,000	810,000
1年内返済予定の長期借入金	240,203	251,093
未払法人税等	28,293	174,560
賞与引当金	70,568	164,792
役員賞与引当金	—	8,921
資産除去債務	14,924	—
その他	690,214	889,402
流動負債合計	2,724,493	4,051,496
固定負債		
長期借入金	1,017,760	1,093,727
退職給付に係る負債	113,088	151,836
資産除去債務	184,451	213,976
その他	244,362	389,550
固定負債合計	1,559,662	1,849,090
負債合計	4,284,156	5,900,586
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,135,327	1,137,171
資本剰余金	1,300,233	1,302,059
利益剰余金	2,222,617	2,379,258
自己株式	△103	△103
株主資本合計	4,658,074	4,818,384
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,779	1,661
為替換算調整勘定	294,876	149,410
その他の包括利益累計額合計	299,656	151,071
非支配株主持分	3,442	2,765
純資産合計	4,961,173	4,972,222
負債純資産合計	9,245,329	10,872,809

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	14,648,352	15,411,760
売上原価	9,536,282	9,850,326
売上総利益	5,112,070	5,561,434
販売費及び一般管理費	4,497,370	4,921,374
営業利益	614,700	640,059
営業外収益		
受取利息	315	2,072
受取保険金	—	16,902
損害補填金	6,178	6,142
為替差益	41,168	40,439
その他	19,616	8,848
営業外収益合計	67,278	74,404
営業外費用		
支払利息	7,744	14,968
その他	5,239	8,271
営業外費用合計	12,984	23,240
経常利益	668,994	691,223
特別利益		
固定資産売却益	2,908	20,177
特別利益合計	2,908	20,177
特別損失		
減損損失	115,253	—
固定資産除却損	—	10,427
投資有価証券評価損	30,790	14,551
特別損失合計	146,044	24,978
税金等調整前四半期純利益	525,857	686,422
法人税、住民税及び事業税	212,751	300,182
法人税等調整額	10,406	△93,970
法人税等合計	223,158	206,212
四半期純利益	302,699	480,210
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△155	△676
親会社株主に帰属する四半期純利益	302,854	480,886

四半期連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	302,699	480,210
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,751	△3,118
為替換算調整勘定	△31,433	△145,466
その他の包括利益合計	△28,682	△148,584
四半期包括利益	274,017	331,625
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	274,172	332,301
非支配株主に係る四半期包括利益	△155	△676

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第3四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「損害補填金」につきましては、重要性が増したため、当第1四半期連結累計期間より独立掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において「営業外収益」の「その他」に表示していた25,794千円は、「損害補填金」6,178千円、「その他」19,616千円に組替えております。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	225,148千円	266,627千円
のれん償却費	27,375千円	77,769千円